

令和 7 年度

## 第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

提出日	R7.6.20
担当課名	環境農林課
グループ名	環境保全グループ
記入者名	

## 1 事業概要

(1)事業名	塵芥処理事業費				(2)事業種別 (新規・継続)	継続	(3)事業性格 (政策・一般)	一般事業		
(4)第5次総合振興計画での位置づけ					(5)予算・財源等の別					
①基本目標	快適な環境のまちく生活環境の整備				①会計区分	一般会計				
②大項目	ごみ対策				②財源区分	町単独				
③中項目	ごみ処理体制の確立　ごみ処理施設の整備充実等				③予算科目	款	4	項　2　目　2		
④施策					④予算事業名	塵芥処理事業費				
⑤施策コード	4.3.1.0	4.3.2.0	掲載ページ	72, 73	ページ					
(6)実施根拠					(7)総合戦略					
①事務分類(自治・法定受託) 自治事務					①総合戦略					
②根拠法令・条例等 小川町廃棄物の処理及び清掃に関する条例					(該当事業名) 無					
③事業期間	開始	不明	年		月から	終了	未定	年		月まで

## 2 事業の目的・内容等

(1)目的(何のために行うか)	(2)内容(どのような取り組みか)
各家庭から発生する一般廃棄物の収集・運搬及び処理を行う。	各行政区や集合住宅等の集積場所に出されたごみを滞りなく収集する。 ・ごみの適切な分別により効率的な収集体制を確立する。
(3)対象(誰に対して、何に対して行うか)	(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)
全町民	・廃棄物の適切な分別により、収集運搬コストの削減や処理コストが低減される。 ・分別が徹底されることにより、リサイクル率が向上し、資源循環型社会の形成が促進される。
対象数	27,290 単位 人

## (5)事業を取り巻く環境(社会環境や町民ニーズ等)

プラスチック資源循環促進法施行に伴い、プラスチック製容器包装のみならず、プラスチック製品も含めた使用製品廃棄物の分別収集及び再商品化に必要な措置を講ずるよう努めることとされている。

## (6)SDGsへの貢献



## 3 事業のコスト(実績・決算・予算) (単位:千円)

(1)事業(内容) 名称		塵芥処理事業費				
項目		決算・予算年度	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	実施年度(R6年度)決算
(2)事業費内訳	報酬		0	0	0	0
	報償費		0	0	0	0
	需用費		518	513	514	523
	役務費		96	58	74	72
	委託料		105,808	138,798	144,155	161,168
	その他		280,208	410,065	384,851	384,957
	直接事業費合計		386,630	549,434	529,594	546,720
(3)財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0
	地方債		0	0	0	0
	その他特定財源		704	656	729	687
	一般財源		385,926	548,778	528,865	546,033
	合計		386,630	549,434	529,594	546,720
(4)補助金名						
(5)人件費						
投入職員数			1	1	1	1
年間人件費			7,628	7,542	7,521	7,772
(6)総事業費			394,258	556,976	537,115	554,492
サービス量(人)			28,494	28,046	27,774	27,290
サービス単価			13.8	19.9	19.3	20.3
(単位)			千円/町民1人当たり			

4 指標の検証				塵芥処理事業費			
指標名			単位	R5年度決算	実施年度(R6年度)決算	今年度(R7年度)予算積算	
(1)活動指標(実施した事業の量)							
指標名		目標値					
		実績値					
		達成率					
		目標値					
		実績値					
		達成率					
(2)成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度)							
指標名	不法投棄件数 (総振目標指標p76) R8年度目標値 25件	目標値	件	25	25	25	
		実績値	件	41	29		
		達成率	%	61.0	86.2		
		目標値					
		実績値					
		達成率					
(3)その他指標に現れない成果							
不法投棄物の中に、行為者の特定に繋がる証拠物がある場合には警察と連携を図り、行為者へ投棄物の引き渡しを行うよう努めている。							
5 事業評価							
(1)項目別評価							
評価項目		評価		評価理由	評価した理由を選択してください。		
必要性	事業の必要性	1	1 必要性は高い 2 どちらともいえない 3 必要性が低い	1	1 事業の実施が関係法令等で定められている		
					2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である		
					3 その他( )		
妥当性	実施主体の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	1	1 事業の主体が関係法令等で定められている		
					2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である		
					3 その他( )		
	手段の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	1	1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している		
					2 他に有効な代替手段が見当たらない		
					3 その他( )		
効率性	コスト効率性 人員の効率性	2	1 効率的である 2 どちらともいえない 3 効率性が低い	3	1 サービス単価は減少している		
					2 サービス単価を維持している		
					3 その他(可燃ごみ処理を直営から民間委託したことに伴い、サービス単価は増加している)		
公平性	受益者の偏り	1	1 偏りはない 2 どちらともいえない 3 偏りがある	1	1 公平に分配されている		
					2 おおむね公平に分配されている		
					3 その他( )		
有効性	成果の向上	2	1 成果が上がっている 2 どちらともいえない 3 成果が下がっている	2	1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている		
					2 成果指標は、前年度より向上している		
					3 その他( )		
進捗度	事業の進捗	2	1 順調に進んでいる 2 概ね順調である 3 あまり順調に進んでいない	2	1 年度内に予定した事業は完了した		
					2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した		
					3 その他( )		
(2)総合評価(上記結果を踏まえて、今後の課題と対応を記載してください。)							
もえるごみの処理方法が、焼却からメタン発酵処理に変わり3年が経過したが、町民や事業者に対する周知を継続して行った結果、順調に収集・運搬・処理ができています。コスト面では、民間委託による収集運搬費用の増、また人件費や燃料費等の高騰もありサービス単価は増加しています。ごみを適切に分別し、もえるごみに含まれる発酵不適物(プラスチック・布類等)の除去、資源化できる雑がみ等の混入を防ぎ、ごみの総量を減らすことで処理費用の抑制に繋がりたい。							
6 事業の方向性の判断				1 拡充 2 現状維持 3 縮小・統廃合			
評価主体	評価	評価についての説明					
(1)一次評価 (担当課長)	2 現状維持	民間委託による可燃物処理を滞りなく行っていく。					
(2)二次評価 (政策推進課長)							
(3)最終評価 (町長)							